

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、町民の皆さまの御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。

本町は、昭和30年1月1日に、旧桑折町、睦合村、伊達崎村、半田村の1町3ヶ村の合併により町制がスタートしました。そして、今年、70周年を迎えたことは、「平成の大合併」の潮流に流されることなく、「自主・自立の町」を選択し、単独立町の道を歩んできたからにはかならず、この間の町政に対する御理解と御協力にあらためて感謝申し上げます。

さて、60周年以降の10年間は、国難ともいえる未曾有の東日本大震災とその後続く原発事故災害からの復興・復興はもとより、新たなステージである創生へ向けた取り組みを力強く進め、夢と活力に満ちた「こおり新時代」の幕開けを迎えたものと捉えております。また、その後の新型コロナウイルス感染症や2年連続の福島県沖地震など、幾多の困難にあつても、町民の皆さんと心ひとつに、それらを克服し、一歩一歩着実にまちづくりを進めてきた結果、今日、住み心地の良さや住み続けた町として、高い評価を得るに至りました。

この記念すべき年にあたり、これまでの歩みに思いを馳せるとともに、先人から受け継いだ気概と地域資源を活かし、「桑折ならではの」のまちづくりを推し進め、総合計画でうたう「みんなが幸せを実感できる 元気なまち こおり」を実現していくことをお誓い申し上げます。

結びに、先人の遺徳に感謝するとともに、未来を担う子どもたちに、夢と希望をつなぎ、花咲く未来を皆さんと共に築いてまいりますので、今後とも御理解と御協力をお願いいたします。

新年明けましておめでとうございます。皆様方には穏やかに新春をお迎えのことと存じます。本年が皆様にとりまして良き年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。また、旧年中は議会活動各般にわたり、御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、能登半島地震その後の豪雨災害など、日本各所で大きな地震や大雨被害が多発し、改めて自然災害への備えの重要性をより認識したところでもあります。また、不安定な国際情勢や為替レートの変動などにより物価は上がり続けており、私達を取り巻く生活環境にも大きな影響を及ぼしております。

その様ななか迎えた令和7年は、桑折町が、昭和30年に1町3ヶ村の合併により現在の町制が歩みを創め、幾多の岐路を乗り越え今年で70周年を迎えることとなります。本町の礎を築いてこられました先人の方々に深く敬意と感謝を申し上げますとともに、かけがえのない故郷「こおり」が未来を担う子どもたちに受け継がれ、そして夢と希望の花が咲き続けられるよう、新たな一歩を踏み出す年になることを願っております。

桑折町議会といたしましても、「住み続けたいまち 住みたいまち こおり」の実現を目指し、町民の代表機関として皆様の声を幅広く拝聴し町政に反映させ、町民主体の町づくりのため今後とも取り組んでまいりますので、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、全ての町民の皆様にとりまして、穏やかで平安な一年となりますことを心よりご祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。



桑折町長 高橋 宣博



桑折町議会議員 原 賢志

新年のあいさつ

町制施行70周年を迎えて――



町制施行 70 周年記念ロゴ

数字の70のデザインは、桑折町を語る上で欠かせない「桃」と「道」をイメージしました。「桃」は実りある未来、「道」は21世紀の追分である「桑折ジャンクション」。町へ人やものを呼び込む希望の象徴でもあります。青は桑折町の青い空、緑は豊かな自然、オレンジは町に降り注ぐ温かい光、ピンクは桃を表しています。

町制施行 70 周年記念誌

町制施行70周年記念誌を発刊しました。役場や各地区公民館などで配架している他、町ホームページでも閲覧できます(広報こおり今月号の70周年特集では、記念誌の一部を掲載しています)。

